

会 議 録

会議の名称	令和8年4月定例教育委員会会議		
開催日時	令和8年4月23日 14時0分開会 15時43分閉会		
開催場所	つくば市役所本庁舎4階 会議室401		
事務局	教育局教育総務課		
出席者	委員	教育長 森田 充 委員 倉田 廣之 委員 和泉 なおこ 委員 坂口 まり 委員 手打 明敏	
	委員以外の出席者	教育局長 久保田 靖彦 副教育長 柳下 英子 副教育長 根本 智 教育局次長兼中央図書館長 柳町 優子 教育局次長兼学務課長 森田 信道 学校教育審議監 三輪 俊一 学校教育審議監兼学び推進課長 久松 和則 教育総務課長 山岡 めぐみ 教育施設課長補佐 矢口 一三 健康教育課長 村山 えりか 学び推進課学校教育政策監 小野 尚文 特別支援教育推進室長 中島 澄枝 教育相談センター所長 須藤 文雄 総合教育研究所主査 岡崎 正道 生涯学習推進課長 澤頭 由紀子 文化財課長 石橋 充	
公開・非公開	<input type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	1人
会議次第及び議事	1 開会 2 議事録承認 3 教育長の報告 4 案件		

	(1) 議案第 20 号 令和 8 年度つくば市一般会計予算案（6 月補正予算）に同意することについて（非公開）
	(2) 議案第 21 号 学校事務共同実施グループにおける総括グループ長及び総括副グループ長の任命について（非公開）
	(3) 議案第 22 号 令和 8 年度学校事務共同実施協議会構成員の指名について（非公開）
	(4) 議案第 23 号 つくば市いじめ問題専門委員会委員の任命について（非公開）
	(5) 報告第 12 号 臨時に代理した事務の管理及び執行の状況について（つくば市教育委員会職員の分限処分について）（非公開）
	5 その他
	6 閉会

◎会議の概要

1 開会	
森田教育長	それでは時間になりましたので、ただいまから令和 8 年 4 月の定例会を開催いたします。お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。本日もスムーズな会議進行に努めてまいりますので、御協力のほどよろしくお願いいたします。
2 議事録の承認	
森田教育長	まず、議事録の承認ですが、令和 8 年 3 月定例会の議事録を委員の皆様事前に確認していただいております。その後修正等がないようでしたら、議事録を承認することとしたいと思いますが、よろしいでしょうか。
委員一同	はい。
森田教育長	ありがとうございます。それでは署名人を倉田委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。
3 教育長の報告	
森田教育長	続いて、教育長報告です。新年度も始まりまして、教育大綱の実現に向けての認識合わせを考えているわけですが、校長や教頭の異動だけで

も相当数ありまして、校長や教頭が同じ方向で教育大綱に向かっていけるように認識を合わせていくことは非常に丁寧にやらなくてはいけないなと思っています。そんな中でイエナプラン教育の創始者ペーター・ペーターセンの言葉を先生たちにも伝えたいと思いましたが、教職員へ発出した教育長メッセージにも書いて伝えさせていただきました。

教育大綱の実現に向けては、望ましい人間関係の構築と授業改善の二つが両輪になると思います。それをしっかりやっつけていこうということで、これから努力していきたいと思っています。特に人間関係づくりが、この前お配りしましたが、いじめ件数もなかなか減らない、子供たちもいじめのないあたたかい学校にしたいんだという思いが一番強いということから、やはりそこを尊重して今年はやっつけていきたいと思っています。ぜひ実現に向けて、みんなで子供たちの未来のために頑張っていきたいと思っています。そのために、子供たち自身も自分の課題を自分からしっかり解決できるような力をつけていきたいなと思っています。

先週4月15日には、松本文部科学大臣がみどりの学園義務教育学校にいらっしゃいました。デジタル教科書のワーキンググループが中央教育審議会でありましたので、それについての調査ということでいらっしゃいましたが、実際に授業をご覧になって感激されていました。何に感激されていたかという、まず学校の紹介を子供たちが大臣にプレゼンしまして、そのあとに大臣からの「デジタル教科書の良さは何なの、紙はいらないの」という質問に対して、子供たちがしっかりデジタル教科書の良さや紙の教科書の良さを自分の口から答えていて、大臣にとっては文部科学省が考えていることが正しいというような答えを生徒が言ってくれたということで感激されておりました。「授業中も子供たちにどんどん話し掛けてください」とお伝えしたら、「何しているの」とか、「どうしてこんなことしているの」と質問されていて、それに対して子供たちが「こういうことを今やっています」とか、「これをこうするとこうなるだろうと思ってやっています」とみんな答えていて、本当に目的を持って学んでいるんだということが伝わったようでした。今度YouTubeにもその場面がアップされるということですので、またアップされましたらお知らせをしたいと思っています。

令和8年度がスタートしましたので、教育委員会の方もみんなで力を合わせてやっていきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

久保田教育局長	<p>それでは、案件に入る前に、局の方も人事異動がありましたので、教育局の職員を改めて紹介をしたいと思います。久保田教育局長、お願いします。</p> <p>(教育局職員の紹介)</p>
森田教育長	<p>それでは案件に入ります。本日は、議案が4件と報告が1件です。議案第20号は議会案件のため、議案第21号から第23号と報告第12号は人事案件のため非公開として進めたいと思います。そのため、本日の案件はすべて非公開として審議したいと思いますが、委員の皆様、それではよろしいでしょうか。</p>
委員一同	はい。
森田教育長	<p>では、そのように進めさせていただきます。早速非公開案件の審議に入りますので、傍聴人の方は一時御退出をお願いします。</p>
(1)議案第20号 令和8年度つくば市一般会計予算案(6月補正予算)に同意することについて(非公開)	
森田教育長	<p>議案第20号、一般会計の6月補正予算についてです。各課からそれぞれ説明をさせていただきたいと思います。</p>
各課長等	(議案に対する説明)
森田教育長	<p>では、ただいまの説明に関して質問、確認事項ありましたらお願いします。</p> <p>(議案に対する質疑応答)</p>
森田教育長	他にはありませんでしょうか。では承認してよろしいですか。
委員一同	はい。
森田教育長	では承認するものといたします。

(2)議案第 21 号 学校事務共同実施グループにおける総括グループ長及び総括副グループ長の任命について（非公開）	
森田教育長	議案第 21 号、教育総務課、お願いします。
山岡教育総務課長	（議案に対する説明）
森田教育長	ただいまの説明に関して質問や確認事項がありましたらお願いします。よろしいですか。では承認してよろしいですか。
委員一同	はい。
森田教育長	では承認するものとさせていただきます。
(3)議案第 22 号 令和 8 年度学校事務共同実施協議会構成員の指名について（非公開）	
森田教育長	議案第 22 号、教育総務課、お願いします。
山岡教育総務課長	（議案に対する説明）
森田教育長	ただいまの説明に関して質問や確認事項がありましたらお願いします。
	（議案に対する質疑応答）
森田教育長	他にはありますでしょうか。では承認してよろしいですか。
委員一同	はい。
森田教育長	では承認するものといたします。
(4)議案第 23 号 つくば市いじめ問題専門委員会委員の任命について（非公開）	
森田教育長	議案第 23 号、学び推進課、お願いします。
小野学校教育政策監	（議案に対する説明）
	（議案に対する質疑応答）

森田教育長	他にはありますでしょうか。では承認してよろしいですか。
委員一同	はい。
森田教育長	では承認するものといたします。
(5) 報告第 12 号	臨時に代理した事務の管理及び執行の状況について（つくば市教育委員会職員の分限処分について）（非公開）
森田教育長	続いて報告第 12 号、教育総務課から説明をお願いします。
山岡教育総務課長	（議案に対する説明）
森田教育長	質問や確認事項がありましたらお願いします。よろしいですか。
委員一同	はい。
森田教育長	では報告のとおりといたします。
5 その他	
森田教育長	以上で予定していた案件は全てとなります。まず、事務局より 1 件ございます。生涯学習推進課、お願いします。
澤頭生涯学習推進課長	現在、若者の居場所としてユースセンターの整備を進めておりまして、これからのスケジュールについて共有させていただきます。まず、ユースセンター整備の背景ですが、近年中高生の間では間接体験や疑似体験が多く、実社会に触れ合う直接体験の機会が減少しているものと思っております。生涯学習推進課では中高生のやりたいことを支援し自ら行動を実現することで自己肯定感や自己有用感を高めるこの指と一まれ事業や、市であらかじめ用意した企画に気軽に参加しボランティア活動を体験してもらうわくわく企画などを提供し、企画レベルで青少年のコミュニケーション力やチームワーク力などの社会力を育ててまいりました。今回のユースセンター整備は、これまで若者政策として空白に近かった領域において、中高生世代を中心とした居場所や多様な活動を支援する場となるユースセンター整備に向け利用者となる世代と共に検討

	<p>を進めていきたいと思っています。</p> <p>このユースセンターの狙いですが、自由で安心できる家庭でも学校でもない第三の居場所として提供していきたいと考えております。そこでは、中高生世代のやりたいことを応援し支援するとともに、若者が抱える悩みに寄り添う、この二つの機能を併せ持つセンターにしたいと考えております。</p> <p>スケジュールですが、今年度は、公募による実行委員会を組織し、ユースセンターの設備や機能、大人との関わり方などについて意見を集約し、今年度末に意見書として市に提出してもらおう予定となっています。それと並行しまして、利用者目線の意見を把握するために3回程度のワークショップを開催し、直接利用者ニーズの把握を行いたいと考えております。次年度以降につきましては、具体的な設備や利用する時間、場所などの検討を行いまして、その実現に向け準備を進めていきたいと考えております。以上です。</p>
森田教育長	<p>今の件で何かありましたら、お願いします。手打委員、どうぞ。</p>
手打委員	<p>ユースセンター整備に向けて実行委員会を立ち上げるということですが、このユースセンターの整備に関わる実行委員会はどのようなメンバーで構成されるのでしょうか。</p>
澤頭生涯学習推進課長	<p>中学生、高校生、大学生、大学院生の25歳以下の方について公募を行いました。10名程度の応募を予定していたところ、17名の方に応募をいただき、内訳としては、中学生5名、高校生3名、大学生7名、大学院生2名でした。立ち上げは正式にはこれからですが、応募いただいた方は全員実行委員として御活躍いただきたいと考えております。</p>
手打委員	<p>実行委員会には職員も入るのですか。</p>
澤頭生涯学習推進課長	<p>実行委員会に入ることはせず、事務局として関わっていきます。</p>
手打委員	<p>ということは、実行委員会の若手のメンバー25歳以下の方々の、自分たちはこんな施設を作って欲しいということをもとめて市に提出すると</p>

	<p>ということですね。</p>
<p>澤頭生涯学習推進課長</p>	<p>はい。</p>
<p>手打委員</p>	<p>それをオーソライズしていくのはどうするんですか。実行委員会で要望が集約されて、それを生涯学習推進課でどう取り扱っていくのですか。</p>
<p>澤頭生涯学習推進課長</p>	<p>今回実行委員会を組織した目的は、行政が一方的に作るのではなく利用者と共に作り上げ、その上で、できることとできないことを精査しながら進めていきたいと思っております。それが次年度以降になろうかと思えます。</p>
<p>手打委員</p>	<p>今年度は1年間かけて検討してもらおうということですね。</p>
<p>澤頭生涯学習推進課長</p>	<p>今年度は意見集約の年にしたいと考えております。</p>
<p>手打委員</p>	<p>わかりました。それは実行委員会にお任せしてやっていただければと思いますが、こういう青少年の居場所づくりについても、すでに先行事例があるんですよね。そういうところを視察する予定はあるんですか。</p>
<p>澤頭生涯学習推進課長</p>	<p>視察については、昨年度4か所行ってまいりました。それぞれの良さがあるなという印象でして、つくば市の若者がどこを目指すのかこれから意見を聞いていきたいと思えます。</p>
<p>手打委員</p>	<p>ちなみに4か所はどこに行ったんですか。</p>
<p>澤頭生涯学習推進課長</p>	<p>文京区のb-lab、武蔵野市の武蔵野プレイス、杉並区のゆう杉並、つくば市のTsukuba Place Labです。</p>
<p>手打委員</p>	<p>Tsukuba Place Labは民間の施設ですか。</p>
<p>澤頭生涯学習推進課長</p>	<p>はい。民間の施設になります。</p>

進課長 手打委員	今年度さらに視察に行くことは考えていますか。
澤頭生涯学習推 進課長	視察については今のところ検討しておりません。
手打委員	わかりました。ぜひ、若い人の意見を踏まえながら作っていただきたいと思います。ワークショップも中・高校生を中心にして御意見を聞かれるのですか。
澤頭生涯学習推 進課長	はい、そうです。
森田教育長	外部の力は借りるのですか。
澤頭生涯学習推 進課長	実際に b-lab を運営していた方が主体となる事業者がございまして、ワークショップと実行委員会について支援していただくことになりました。
森田教育長	他にございますか。今後も随時情報共有していきたいと思っておりますので よろしくをお願いします。 事務局から他に何かございますか。
事務局	ありません。
森田教育長	では、委員の皆様から確認したいことなどありましたらお願いします。 手打委員、どうぞ。
手打委員	4月の初めに学び推進課から令和8年度学び推進方針について御意見を伺いたいとメールをいただきました。少し確認したいことや私の意見等があるのですが、そういうのもこの場でよろしいでしょうか。
森田教育長	お願いします。
手打委員	子供の幸せを目指して9年間に渡るいろんな取組が行われているとい

	<p>うのは理解しました。ちょっと細かいことはいちいち申し上げませんが、全体を通して私が感じたことは、教育大綱にある3つの考え方、「教えから学びへ」、「管理から自己決定へ」、それから、「認知能力偏重から非認知能力の再認識へ」が盛り込まれていて、それについてはそのとおりだと思いましたが、それを9年間のつくばの義務教育の中で達成していく上で何か順序性といいますか、あるいは空間軸や時間軸といったものはないのでしょうか。つまり、小1の入学早々の子供と、それから高校へ行こうとする子供たちも同じ目標、教えから学び、それから自己決定や非認知能力という能力を子供たちにつけていくときの順序性はないのでしょうか。</p> <p>小学校低学年も中学生も同じように作られている感じがしたのですが、例えば小学校低学年の子ならばまだ学ぶよりもむしろ教えから段々入っていくとか、自己決定にしても、自己決定に至るまである程度教員による方向づけという大変ですが、教師指導性から子供の指導性へと言いますか、そういうふうにもう少し時系列というか時間軸に従って教員と子供の関係が変わっていかないと先生方も困るんじゃないかなと思いましたので、どのようにお考えになっているかお聞きしたいです。</p>
久松学び推進課長	<p>まず、発達段階というのは本当に大事だと思います。その中で、教える部分と探求する部分と経験する部分と、そういうものを両輪に持って、発達段階で目指す子供像を持ちながら学校には実践していただくという形になっております。教科領域についても、そういうような形でステップ表というものなどを参考にしながら9年間連続のある学びということで教育を進めています。</p>
手打委員	<p>私の取り越し苦労かもしれないですが、先生方は学び推進課から送られた今年度の学びのプランについて、低学年の先生は低学年の先生なりに自分でそれを咀嚼していくことができるということですね。</p>
久松学び推進課長	<p>そうですね。やはり先ほど言ったように発達段階というのがすごい大事になってきますので、その中で体験をする部分そして基礎知識を身につける部分というところは、しっかりとそれぞれの担任が理解して実践していくことになります。</p>

手打委員	<p>できたら来年以降は少し時間軸を設定していただいて作っていただくと、もっとわかりやすくなるかなと思いました。</p>
森田教育長	<p>でも、この時間軸については各学校で作っているんですよ。私たちは方針を説明して、それに従って各学校が自分たちの教育目標や子供たちの実態に合わせて各教科とか領域についての指導計画を作るので、その中で具体的に示して持っているということになるんじゃないかと私は認識していますが、副教育長どうでしょうか。</p>
柳下副教育長	<p>手打委員さんのおっしゃるとおりだと思います。例えば、教育大綱に「教えから学びへ」という言葉がありますが、100%教えだと言っていた先生がいた時もあるわけです。教えが100%ではなくて目の前にいる子供がどういう実態なのかということ把握した上で、教え一辺倒で終わる学びではなく、例えば教えられたことを生かしながら生活の中で考えていろんな学びを体験したいという子が、教えられたことだけで留まることが決してないようにという意味が教えから学びということだと思います。</p> <p>時間軸という話もありましたが、発達によって成長していき自分で考えて学び取っていく主体的な自立した子供に成長していくことを私たちは望んでいて、そのための考え方を変えるための言葉なのであって、どっちがどっちということではないと思います。目の前の子供を中心に考えたときに、両方必要であり、振れ幅がどちらになるかはその目の前の子供に合わせていくことが必要だと思います。</p>
森田教育長	<p>各学校でそれぞれの教育目標に向けて学年によって望む子供の姿みたいなものやステップ表を作っていますし、作るように指示していますので、その中で表現されていて、方針にそこまで書くのはなかなか難しいのかなと思います。ただステップ表のような、こんな姿だよねというのはある程度示して、別に出してはいます。</p>
手打委員	<p>わかりました。ありがとうございます。それともう1点、先日、新年度を迎えるに当たって、森田教育長が市内の教職員に発出したメッセー</p>

森田教育長	<p>ジを共有していただきました。メッセージの中で気になったことがあります。子供たちのアンケートの結果を引用されていて、子供たちの求める学校ということで最後の方に高校受験を見据えた進度の見直しということが出てきていますが、それをどう解釈すればいいのかということをお聞きしたいです。</p> <p>私もその回答は子供たちが正しくつくばの教育を理解してるのかということからすると、ちょっと異質だなという思いはありました。ただ、子供たちにとっての最後の目標の1つはやはり高校受験だという思いがあって、その中で子供によってはもっと先生教えてくださいという思いがあると思います。自分たちが学ぶんじゃなくて先生から教えてもらいたいんだという子供も中にはいて、それからできるだけ進度早くして欲しいという思いの子供がいるのかなと思います。塾などは進みが早く、それに比べて学校は計画どおりに進むので遅いので、そうするとどうしても学校の勉強が遅れてきて塾の方が先行して、何かこう自分の学びと合わないところもあるということ言ってるのかなと私は解釈しました。</p>
手打委員	<p>私も今、教育長がおっしゃられたような受けとめ方をしました。つまり、受験を控えて子供たちの焦りといいますか、教育長もそこに注目されてアンケートを引き合いに出したと思いますが、いざ高校受験を控えたときに学校の勉強だけでいいんだろうかという思いがあると。そういう意味で進学塾の状況などは無視できないわけですよ。そのことは教育長としては、致し方ないという思いでしょうか。</p>
森田教育長	<p>私としてはその言葉について記載しないでおこうかなとも思いました。でも載せたというのは、やはりそういう思いをしている子供もいるということ先生たちは認識した上で自分たちの教育を考えていただきたいと思ったからです。一人一人を見るときに、今委員がおっしゃったような子供の焦りなんかも感じ取れなきゃいけないだろうなと思ったので、あえてその言葉は残しておいたほうがいいんじゃないかなと思いました。だから、つくばが本当に目指してるのは受験ではなくて将来に結びつく力だと思いますが、ただ受験がある以上ああいう焦りを持つてる</p>

手打委員	<p>子もいるんだということを、先生たちは認識した上で、教えから学びを考えていくというのは1つ大事なポイントなのかなと思い、あえて残しました。</p> <p>理想と現実といえますか、あるべき姿と現実をどう折り合いつけていくかということが必要かと思えます。現実には私の周りの保護者の方もやはり心配だから子供を塾に行かせざるをえないという方がいらっしゃいます。ですから、その辺も先生方にわかっていただくことが必要かなと思いました。</p>
森田教育長	<p>子供だけじゃなくて焦ってる保護者もいらっしゃると思います。でも、つくばの教育をしっかりやっていくことによって力もちゃんとついているんですよということを私たちは示していきたいと思っています。だからその辺を皆で認識した上で、さらにつくばの教育の教えから学びをしっかりやってもちゃんと対応できるんだということを子供にも保護者にもわかってもらえるほど頑張りたいというか、充実させたいと思っています。</p>
倉田委員	<p>私の考えになってしまうかもしれませんが、先ほど手打委員が言われたつくば市の目指す教育方針について、学校では発達段階を考慮した連続性のある教育を目指していると思います。そのために各学校でどのような実践をすればいいのかという工夫改善が求められるわけです。だから各学校の実態によっても違うのだと思います。各学校の実態を把握してどういうことを考えていくべきかというのは、学校に与えられたものだとは思っています。だから、すべての学校は全く同じ方向でやるのではなくて、うちの学校だったらこういうことを重点的に進めていくことによってそれが達成できるんだと考えて欲しいと思っています。</p> <p>最終的には一人一人の目指す方向性を子供自身に見出せれば求めるものが得られるのかなと思います。それは結局、高校の受験に関しても同じだと思います。自分がどういう方向を向いていて目指すのか、それによって高校を選択すべきだと思います。一人一人全部違うということを義務教育9年間の中で学び知ることが私は重要なかなと感じています。</p>

森田教育長	<p>小学校単独中学校単独で考えるのではなくて、ある程度学園の中で相談しながら考えようというのも、つくばの特徴だと思います。</p>
和泉委員	<p>学校で違うってどれくらい違うものなんですか。</p>
倉田委員	<p>学校というよりも学園単位で違っていいと思います。学園単位だとほとんど小学校から中学校までそのまま上がっていくので、その地域の実態とかもほとんど変わらないわけです。その中で小中の校長同士がどういう子供たちを育てていくべきなのかということをよく協議して、学園として子供たちの方向性というのを見出してあげることで、方向性がぶれないのかなと思います。</p> <p>結局、指導目標に合致していればいいわけであって、そこら辺もしっかり押さえて教育することが私は何よりも大切なのかなと思います。つまりそういう面では学校のあり方というのが問われると思っています。委員会としては、同じことをやれと言うんじゃなくて方向性を示して、各学校でそれに向かって努力してくださいと言わざるを得ないかなと思います。そのあとは学校の問題だと思っています</p>
森田教育長	<p>目指す姿はそんなには変わらないと思います。ただ、やることや結びつきが違うということですかね。</p>
倉田委員	<p>そこの特色もあるし、できることできないこともあるので、地域資源をどれだけ生かせるかということでも変わってくるのかなと思います。</p>
森田教育長	<p>地域資源の違いは大きいですね。</p>
倉田委員	<p>大きいと思います。</p>
坂口委員	<p>関連して質問させていただいてもよろしいですか。</p>
森田教育長	<p>坂口委員、どうぞ。</p>

坂口委員	<p>目指すものですかこういうふうにやろうということ、各学園・学校でこの方針を基に具体的に話されてるんだと思いますが、この方針を見て、振り返りを大事にするとか、ICT教育はこういうふうに伝えていきますとか、こうしたいと思っていますというのは非常に感じましたが、先ほど教育長おっしゃったように、今までのやり方とガラッと違う方向に向かってやっていこうというものじゃないですか。なので、そもそも発想として、私たちが受けてきた教育、先生方の受けてきた教育やこれからやろうと思っている教育ということも含めて、発想自体が違うものであるというのが基本としてあるのかなと思いました。</p> <p>教育大綱に対してこうやっていまいしょうという方針とか目指すものとかの話し合いまではきっとされていると思いますが、それぞれ具体的にどのようにやるかという手法、例えばICT教育を目的としてではなく、ちゃんと道具として使うためのアイデアはこうですよという勉強会がきっとあるんだろうなと思いつつ見ました。</p> <p>あとは振り返りという言葉がキーとして気になりました。体験学習や環境教育という世界で仕事をしてきた関係で、非常に大事にしているものだったので、実際に学校の授業参観ですとかいろんなところを見ている中で振り返りというもののとらえ方自体がそれぞれ違うんだなということに気づきまして、その振り返りというもので、子供同士の多様性ですとか対話ですとか認め合うということが非常に生まれる場だなと感じています。そのやり方によって、意見やチャンスが消えるということもあり得るなと感じていますが、そのやり方をお任せですという状態が結構多いものなのか、それともアイデアとして勉強会や研修会があるのか、もしないならばどういったものがあるのか気になりました。</p> <p>学びの学習面ではなく、人と人の対話や認め合うものとして意見交換の時間などがあるべきじゃないかと思っているんですが、そういった時間は実際にどの程度現場の先生がやっているのかなと思いました。もし、それが忙しすぎて難しいようであれば、保護者への理解ですとか子供たちに伝わるものとかも変わってくるんじゃないかなと思います。これを見たときに壮大なものなので、忙しい中で例とかがないとなかなか難しいのかなと感じたんですが、どのように皆さん研修、勉強会など共有されてるんでしょうか。</p>
------	--

久松学び推進課長	<p>そちらについては、副教育長の訪問や学び推進訪問、重点校訪問というものがあります。それぞれの学校の課題を全部一気にというのはなかなか難しいのですが、教育大綱の実現に向かっていくための課題を一つずつ解決していこうということで各訪問を行っています。そこで課題を学校と共有しまして、そのためにどうすればいいのかという手だて、例えば授業であれば授業でこういう工夫をすると子供たちが振り返りができるようになるからというようなことを指導主事が伴走をして解決していくといった機会を作っております。教育大綱を5年間で実現することを目指しているので、今年度だけで全部ということではなく、少しずつ実現に向けて、今、取り組んでいるところです。</p>
森田教育長	<p>2,000人以上の先生に浸透させる大変さというのは、この仕事をしてると一番の悩みですね。だからメッセージもできるだけ出して、認識合わせをしてもらいたいと思っているのですが、わかってできる人とわかってもなかなかできない人とわかってくれない人というわけで、その人たちが同じような実践ができるようにするというのは、非常に大変です。だから今言ったような訪問を通して学校の認識を合わせられるように指導主事がいろいろ提案したり、実践事例を紹介したりするのもあれば、研修会を開いて学校の代表を何人か呼んで学んだ上で学校で広めてもらうとか、いろんなやり方をやってはいるんですが、振り返り1つとってもなかなかみんな同じにできないというのは、難しいところだなと思います。根本副教育長、どうでしょうか。</p>
根本副教育長	<p>先ほどお話に上がっていた推進方針も教育大綱をもとに作成されており、それを詳しくしたものが推進方針です。それをさらに具体化したものを提示しようとする膨大なものになって、それを作るほど取組の縛りになると思います。これを踏まえて具体的にどうするか、教えから学びという両極について、教えじゃなくて学びとか、管理じゃなくて自己決定とかではなくて、その流れを義務教育を終える段階でスムーズに行えるようにする必要があると思います。</p> <p>子供の実態や状況によって予定したとおりに進まない場合もあると思うので、どの辺までを管理から自己決定に進めていけばいいかというのは子供と地域の現状や実態があって初めて考えていけるのかなと思います。</p>

	<p>ます。自校ではもう少し学びに進みたいけれども管理的な部分もしっかりやらなくてはというところも出てくるでしょうし、そういうところの差は、学校間であると思います。</p> <p>それと2,000人の先生方がいると出入りもあって、つくばに初めてこられる方もたくさんいらっしゃいます。やはり地域が違くと教え方が違うということもあります。学校教育は2,000人いれば2,000人全員が子供と関わる状況にあるというのがいろんな組織との違いだと思いますが、誰かが頑張っていれば組織として動くのとは違って、先生方一人一人まで子供と関わる場面にいるので、教育長がおっしゃっていたように全員にこちらの意図を伝えていくという難しさというのは感じます。</p> <p>ただ、いろいろな形でアプローチしていったって、もちろん学校内で十分できる学校もありますし、教育委員会のサポートがより必要な学校もあるので、そこはその状況に合わせて進めていくことが必要かと思えます。</p>
森田教育長	<p>異動してきた先生のアンケートの中に、来たばかりでこのつくばの方針を見たらこんなの理想でしょう、こんな理想できませんと最初思ったと。ところが周りの先生の実践などを見ているうちに、これはやらなきゃ駄目だし、自分もできそうだと少しずつ考えが変わってきて、最後は大分できるようになってきたんだという回答がありました。地域による違いや先生方の経験の違いというのはかなり大きいので、それを同じような考えでできるようにするのは難しいんですが、それをやらなきゃいけないということですね。</p>
手打委員	<p>私、義務教育の経験はないので非常に初歩的なことをお聞きしますが、教員については県内の初任研などがあると思いますが、それとは別に学校の中で学年ごとや教科ごとに研究会や研修会というのは頻繁に行われているんですか。</p>
久松学び推進課長	<p>いろんなところで行われています。例えば、教育研究会ではそれぞれの教科分野で研修を行っていますし、それぞれの学校や学園単位でも研修等行っています。また、総研で予算をつけていただいてそれを活用し</p>

	<p>たりしています。教員対象の研修というのは、夏休みなどの時間がある時にじっくりやっている学校が多いかなと思います。</p>
森田教育長	<p>週1回放課後でどこかの曜日は校内研修の時間と位置付けている学校がほとんどです。ただ、その研修が学年でやったり、全体でやったりといろいろな形態は変わりますが、月に1回ぐらいは学校全体でやっているかなと思います。お互いの授業を見合うこともやっていますね。特に、授業が上手な先生の授業を見るというのが一番勉強になるということで、そういう機会を各学校は作ってくれています。頭でわかっても自分ができるようになるまではなかなか時間がかかるものですが、先生方もお互いの学び合いというのが大事だと思って実践してくれています。</p> <p>今年は先生たち同士の対話を何とか増やしたいと考えています。研修という形も大事ですが、普段の対話を大事にしたいなと思っています。</p>
倉田委員	<p>仲良いことが一番ですよ。それを子供は見てますから。私もああいうふうになろうと思ってもらうことが理想だと思います。</p>
森田教育長	<p>そういう意味では、教育局の指導主事は本当によく対話しています。時間さえあればみんないろいろ情報共有してくれています。</p>
手打委員	<p>もう1点よろしいでしょうか。</p>
森田教育長	<p>手打委員、どうぞ。</p>
手打委員	<p>つくば市コミュニティ・スクールに関してですが、地域学校協働活動というのが行われていて地域学校協働活動の推進員を委嘱してと思いますが、委嘱した人は何人ぐらいいらっしゃるのでしょうか。</p>
澤頭生涯学習推進課長	<p>1年ごとの任期になっておりまして、今年も今、学校から名簿が上がってきているところですが、50名前後だったと記憶しております。</p>
手打委員	<p>つくば市全体で50名ですか。</p>

澤頭生涯学習推進課長	基本的な考え方としては、1校当たり2名の推進員を定数としております。
手打委員	地域学校協働推進員は各学校に配置されるのですか。
澤頭生涯学習推進課長	コミュニティ・スクールは学園単位になります。具体的な活動として小学校単位での活動も想定していきまして、小学校単位で2名、学園単位でいうと例えば3校であれば6名ということになります。
手打委員	小学校単位で2名程度ということですね。わかりました。 それと、学校運営協議会は、義務教育学校も含めて各学園にすべて設置されているということですね。そうすると、例えば1つの学園で小学校が2、3校で中学校1校という中に学校運営協議会は1つという理解でいいわけですね。
澤頭生涯学習推進課長	はい。
手打委員	私も私の地区の学校運営協議会に参加をしたいなと思いますので、いつ開かれているのか教えていただきたいのですが、スケジュールはわかりますか。
澤頭生涯学習推進課長	学園ごとの開催計画を集めているところでして、一番早いのが5月1日の高山学園です。順次、ホームページでお知らせする予定となっておりますが、まとめ次第、委員の皆様にも共有させていただきます。
手打委員	ぜひ参加したいなと思いますので、よろしくお願いします。 最後ですけれども、つくばのこのコミュニティ・スクール構想についてです。私の印象だと学校運営協議会が核になってスポーツ少年団や親父の会などの地域の方々の力で学校の様々な活動を支えていくということがコミュニティ・スクールの1つの大きな役割だと思います。 つまり、コミュニティ・スクール構想と地域学校協働活動が一体となりながら、学校の支援とともに学校の教育活動がより効果的に進めていくためには、地域が教育的に高まっていかなくてはいけないと思いま

	<p>す。学校側からの要請だけではなくて、地域学校協働推進員の方からもこんなことをしたらどうかとか、あるいは地域でこういう活動をするから学校と一緒にやりましょうみたいな働きかけがあるべきじゃないかと思うのですが、今度出されたコミュニティ・スクールの図では一方通行になっているように思いました。</p> <p>コミュニティ・スクールが協議の場だとするならばそれを受けて実動部隊として地域協働推進員が活動するという流れになっているのですが、それとは逆に地域協働推進員の方から学校へ働きかけていく活動をしていくことが、結果的には学校の教育の豊かさに繋がってくるんじゃないかなと思います。また、そういう構想が地域学校協働活動じゃないかと思うのですが、ちょっとそこが弱いかなと思いました。地域協働推進員の方からの働きかけとか、独自の活動についてもう少し力を入れていく必要があるのではないかと図を見て思いました。</p>
<p>澤頭生涯学習推進課長</p>	<p>手打委員がおっしゃったことはまさに当課としましても認識しているところでございます。お示しさせていただいた図は当初の入り口段階といたしますか、入り口は学校を地域が支援していこうというスタイル、それが次の段階に移るということも十分に認識しておりまして、今、まさに移行期なのかなと思っております。</p> <p>目指すところは、学校と地域が共に手を取り合って、最初は学校を支援するという認識だったのが、気付いたら地域全体が活性化していて、そこで暮らす方々が生き生きとして個人の社会力もそうですし地域全体も盛り上がっていくところを目指したいなと思っております。ただ、それはもう少し先のフェーズなのかなとも思っておりまして、その働きかけこそが特に大事だなと思っております。</p> <p>今、学校には、コミュニティ・スクールを理解していただいて活動を始めていただいたところで、ただ、私たちがやらなくてはいけないのは、その先を示しながら今をやっていただくというのが特に大事だと思っておりますので、我々の思いというのは手打委員と同じかなと思います。</p>
<p>手打委員</p>	<p>私もそう思います。そういう組織的な活動を地域の側ができるかどうかというのは、これから少し時間をかけるというのはもちろんそうだと</p>

	<p>思います。そういう方向でぜひ取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>つくば市では社会教育主事と発令されている方がいると思いますが、何名いますか。</p>
澤頭生涯学習推進課長	2名です。
手打委員	その方々はどんな仕事をされているんですか。
澤頭生涯学習推進課長	生涯学習推進課にその2名配属いただいています、コミュニティ・スクールを中心に担っていただいております。あとは、家庭教育学級や人権教育などにも携わっていただいております。
手打委員	<p>社会教育主事は求めに応じて指導助言するということがありますから一方的にできないということもわかりますが、もう少し生涯学習推進課としても社会教育主事の方々にコミュニティ・スクールについてはお力添えいただいたほうがいいと思います。今、コミュニティ・スクールが少なくとも地域の中でまだまだ存在感がないですから、そのところは地域学校協働活動も含めて活性化するために社会教育主事の方にもお力添えいただく必要があると思いましたので委員として要望したいなと思いました。</p>
森田教育長	<p>手打委員がおっしゃったとおりだと思います。地域づくりという最終目標を持っているのはみんなの共通認識で、その中で第1フェーズが今、進んでいるところかなと思います。以前は社会教育主事も1人だったんですが、コミュニティ・スクールをやるために、市長からもぜひということで、2人にさせてもらいました。実際にコミュニティ・スクールの研修会や学校の連絡を段取りよく社会教育主事たちがやりまして、やっところまで来たという流れです。社会教育主事が大分力を発揮してくれてるなと私は思っています。今、手打委員がおっしゃってくださったように、ぜひ進められるようにやっていければと思います。ありがとうございます。</p> <p>他には何かありますでしょうか。</p>

和泉委員	いいでしょうか。
森田教育長	和泉委員、どうぞ。
和泉委員	教育長メッセージと学び推進方針説明会の資料を共有いただきありがとうございました。これは毎年出されているのですか。
森田教育長	そうですね。今までメッセージは出していなかったんですが、今回出させていただきました。
和泉委員	そうだったんですね。共有してくださりありがとうございます。
森田教育長	知ってもらったほうがいいかなと思いましたので共有させていただきました。
和泉委員	<p>感想ですけど、森田教育長の率直な思いや願いがすごくよく伝わりましたし、AI では作れない文章じゃないかと思いながらメッセージを読みました。なるほどと思ったのは、毎年学び推進課から「学び推進方針」について御意見くださいというのを受けて、私を感じたことを戻していたのですが、これが一体どうやって使われてるのがわからないままでした。それが今回、教育長メッセージがあり、推進方針説明会があり、そのあとにこの推進方針にブレイクダウンされているというのがすごくよくわかりました。その先は発達年齢に応じたものを各学校で作っていくのだと思いますが、その構造が始めてよくわかりました。ありがとうございました。引き続き、それを見て先生方はどう感じるのかとか子供たちの学びがどうなってるのかというのはぜひ知りたいと思いました。</p> <p>教育長による推進方針説明会のスライドの中で、授業改善の基礎に人間関係づくりが大事であるということで対話に注力していくというのは、もう本当にそうだなとすごく思いました。学びの場づくりは不登校の子供たちや特別支援が必要な子供たちにとって一番必要なことであろうと感じてきたので、そういう学びの共同体づくりが今年度終了というのは、また次に進んでいる感があるという感想も持ちました。</p> <p>最後に、とてもささやかな提案ですが、ぜひ森田教育長から子供たち</p>

	<p>に向けたメッセージを出していただけないかなと思います。というのは、振興基本計画のアンケートは本当に大事な生の声で、まず答えてくれてありがとうということと、答えた後どうなっているかこちらからフィードバックするのは、すごく大事だと思います。ちゃんと聞いてるよという思いを少しでも構わないと思うので、ぜひ森田教育長から子供たちに向けて発信していただけると良いのではないかと思います。この2つについては以上です。</p> <p>それと、栗原小の入学式の印象をぜひ共有したほうが良いと思ったので、いいですか。</p>
森田教育長	はい。
和泉委員	<p>今回、8名の入学生だったと思います。席が家族と一緒に座るというスタイルで、おばあちゃんも来ている家庭もあったし、下の小さい子供たちも一緒に式に参加している家庭もあって、もうとても温かい空気がありました。卒業式でみどりの南中学校に行ったときも式の後に全員が集まって泣いていたというシーンを見たのですが、今回の入学式も人数が少ないがゆえに、一緒に入学したよねという共感のような空気を感じてとても嬉しくなりました。1人緊張して泣いている子もいましたけど、この1年楽しくなるはずという印象を持ちました。</p> <p>来賓6名中4名が栗原小の卒業生で、校歌を高らかに歌っていて愛校心もすごく感じたので、探求活動とか、普段の生活の様子とか小規模の良さをどんどん今年発信したほうが良いなということも強く感じました。</p>
森田教育長	<p>始業式も40人しかいないので、みんなでサークル対話だったと言っていました。対話で始業式をやり給食も全員で食べたりしていて、本当に今言ってくれたように普段の様子も発信したほうが良いだろうと思いますね。</p>
和泉委員	<p>ぜひというか、絶対したほうが良いと思います。これこそ本当に多様な学びの場の実践だと思うので、貴重だと思います。</p>

坂口委員	<p>私もそれに関連することを皆さんに共有したいなと思います。私がやっているフリースクールは栗原小学校の子が多く、全員が小規模特認校の栗原小学校に残りました。どういう状況かなと思っていたのですが、いろんな感想が届いてきているので、その感想を皆さんに共有したいなと思います。</p> <p>全体から言いますと、みんな楽しいのでフリースクールにほとんど来ないので、あんまり感想は聞けてないです。でも、どこに行くにしても楽しいことが一番だと思うので、私たちとしては、それはすごく嬉しいことだなと思っています。なかには休憩とか何か違う意味を持って来てる子もいたり、繋がりある保護者もいるので、何人か感想を聞きました。何組かの保護者の方がおっしゃっていたのが、すごく楽しく行ってるので、朝学校に行くのに早くしなさいというやりとりがなくなって、自分で準備してさっさと行くようになったということで、本当に子供たちがすごく行きたいという気持ちで朝準備しているんだなというのを感じました。</p> <p>それから、その保護者の方が入学式のアットホームさもすごくよくて、今までの考えとは違うことをしようとしているんだなということが伝わってきて、ワクワクしたという感想も聞きました。授業参観も1週目の週末にあったみたいで、先生方が楽しそうだと子供たちにも楽しいというのは伝わってくるんだなと思ったとおっしゃっている保護者の方もいました。</p> <p>それから、子供たちに直接何人か聞いた中で多かったのは、最初に「学校変わったんだって、どんなふうに変ったの」と質問すると、まず最初に返ってくるのが「宿題がないんだよ」ということでした。それほどまで宿題がないことの喜びがあるんだなと思いました。1週目はまだ授業があまり少なかったからかなと思うんですが、その次に出てくるのが、自分たちでいろんなことを決めることが面白いということで、自分たちで決められる喜びみたいなものを話してくれて、逆に高学年の子ですと、自分たちで決めることに対して、学校のすべてを背負ってるような気持ちになる子もいたりして、そのプレッシャーを感じてる子もいました。ただ、それは最初の感覚ですので、今後どう変わっていくのかちょっと楽しみに思います。</p> <p>それから、今朝聞いたんですけど、「すごい自由なんだよね」と高学</p>
------	--

<p>森田教育長</p> <p>委員一同</p> <p>森田教育長</p>	<p>年の子たちが言っていて、「これしてもいいしあれしてもいいし、授業中に何見てもいいんだよ」というので、「その自由さって勉強してない感じなの」と質問すると、「してる感じはあるんだよ」と言うんです。なので、その自由さがある中で授業をしてる感があるということは、嫌々ではなく楽しく取り込める気持ちになっていて、嫌々やらされていることとの違いってすごいなと思いました。</p> <p>もう1個保護者からあったのが、1年生ですとか低学年はやはり新しいサイクルタイムですとかそういった新しい形にもととのイメージがないのでみんなすんなり入って取り組んでる感じですけど、高学年になるほど今までの授業スタイルに慣れているので新しい授業スタイルに戸惑っているような感じはあるということをお話していました。</p> <p>まだ私の知っている関係者の3分の1程度しか聞いてみませんので、これからどれくらい聞けるか楽しみにしていますが、またいろんな感想があれば共有できればと思っております。</p> <p>先ほど申し上げたように小規模だからこそできるというものもあるとは思いますが、どんどん他の学校にもそういったアイデアですとかやり方とかが広がって行って、楽しく通える子がたくさん増えると良いなと感じています。</p> <p>ありがとうございます。うれしい状況ですね。これからも続いて行って欲しいなと思いますね。</p> <p>では、他にはいかがでしょうか。よろしいですか。</p> <p>はい。</p> <p>本日は、長時間にわたり貴重な御意見をいただきありがとうございます。</p>
<p>6 閉会</p>	
<p>森田教育長</p>	<p>以上をもちまして、令和8年4月定例会を閉会します。ありがとうございました。</p>

署名年月日	令和8年（2026年）5月25日
調製者	久保田 靖彦